

グラビア	地域を支える人 櫻井万里子さん+越田雅子さん+会田理人さん・北海道	1
発掘！地域の希望のタネ	福岡県豊前市 〈豊前ジビエ〉	5
給食のじかん	〈お湯ポチャ調理体験会〉 大阪府	増井厚彦 6
解題	命を選別しない社会へ	8
焦点	性暴力のない社会へ	山本 潤 10

特集

命を選別しない社会へ

	生きることに意味がある ——大変だけど面白い社会をめざして	奥田知志	18
	障害者差別にどう向き合うか	藤井克徳	25
	身体拘束から人権を考える	長谷川利夫	31
	相模原市における精神障害者支援の取り組み ——措置入院者の退院後支援の充実に向けて	鈴木雅文	40
	虐待のない開かれた施設をめざして ——障害者入所施設「田無の会たんぽぽ」の取り組み	小沢 弘	47
データ解説	進まぬ地域移行、障害者をめぐる現実		55
各県自治研活動レポート	栃木県職労自治研活動の復活に向けて 栃木県本部	須永恭広	58
募集	オンライン自治研 with 青森		60
書評	阿部潔 著『東京オリンピックの社会学』	菅原敏夫	63
連載	『月刊自治研』を読む〈第五季〉⑨「夜明け前」に描かれた森	篠田 徹	64
	自治研センターの機関誌案内		71
	次号予告・編集部から		72

命を選別しない社会へ

「人の命は平等」「命に優劣などない」——その概念を大きく揺るがせたのが、津久井やまゆり園事件でした。事件を思うたびに、私たちがいまだに割り切れない気持ちになるのは、この社会が、ありのままの命を受け入れる基盤となり得ていないからではないでしょうか。一人ひとりの命の尊厳と、それを支える社会のあり方を考える特集です。

この命にも意味がある

意味ある命と意味の無い命などない、命それ自体に意味がある——その言葉が自明の理とはならない時代を、私たちは生きています。役に立つ人間かどうかで命の価値がはかれる時代だからこそ、命の普遍的価値を信じ、誰も切り捨てない社会をめざす筆者の言葉が、強く胸を打ちます。(本誌一八頁)



障害者差別と優性思想

社会が不安に揺らぐたびに、優性思想は頭をもたげ、多くの犠牲者を出してきました。視覚障害のある筆者は、「新型コロナウイルスが、命の選別をめぐる問題を新たに表面化させた」と感じています。それはどうということなのでしょう。障害者差別をなくすためのアプローチについて考えを深めます。(本誌二五頁)



身体拘束から人権を考える

精神障害、精神疾患と犯罪を結びつけて捉える風潮が強まっています。その一方で、精神医療の現場で起きている長期入院や虐待、とりわけ身体拘束などの人権侵害の問題はなかなか知られていません。深刻な現場の実態について問題提起します。(本誌三一頁)



神奈川県相模原市 措置入院から地域移行支援に向けて

やまゆり園事件は、障害者支援に取り組み自治体の現場にも大きな衝撃を与えました。地元である相模原市は、被害者と加害者、不安を感じる市民との狭間で苦悩しつつも地域共生社会をめざすとしています。措置入院後の退院支援と長期入院者の地域移行支援に関する市の取り組みを報告します。(本誌四〇頁)

データ解説 進まぬ地域移行、障害者をめぐる現実

(本誌五五頁)

虐待のない開かれた入所施設へ

閉鎖的な施設では虐待が起きやすいとされています。虐待行為によって二度の行政処分を受けた障害者入所施設「田無の会たんぽぽ」。率直に語ることで自身が難しい「障害者施設と虐待」の問題について、施設改革に取り組んできた筆者からの貴重な報告です。(本誌四七頁)

